



「レッグカーフ-500」[B]と武澤圭朗氏  
独自の2段式旋回アーム  
レバー挿しなど収納スペースを装備

タイヤ整備機器をはじめ更生タイヤ製造や廃タイヤ処理の機器・システムの国産メーカー、小野谷機工㈱(福井県越前市、三村健二社長)。同社では安全性と軽労化・省力化の両立を実現する機器の開発に取り組み、タイヤ整備の現場に製品を提供してきている。今回、会社創業50周年を契機として市場「一ズ」に対応する新製品を数多くラインアップ。その中からレッグカーフ-500について、商品開発本部機器商品開発部の武澤圭朗さんが実演デモと解説を担当してくれた。

生産タイヤの脱着時に使用する大型インパクトレンチやホイールナットランナー。これら機器は本体重量が重い。また車両やタイヤの位置関係から、状態で作業しなければならず、作業時の肉体的負担が大きい。

アームを2段式の旋回機構にするという新しい発想、そしてバランスシリンダーを採用したのが「F-500」シリーズとなる。

アームの上下の位置決めが自由です。従ってレッグカーフ本体を車両の横にセットすれば、作業を中断し移動させることなくワンストップで、ホイールナットの取り

回アーム機構と前方向ブレーキ、収納スペースの小物入れ・大&レバー挿しが共通の付属装備。ハイエンドの

「レッグカーフ-500LB」には後方ブレーキや消音装置、インパクトレンチへの空

気供給圧力の調整を行うF.Rユニット、小物入れ(中/小/ナット入れ)をフル装備している。

同社のジャッキは工作台方式。アーブースター方式。空圧のみ高油圧を発生させるもの。

武澤さんは「ベースターエアジャッキ『BAJ-A』シリーズは、ボディが軽量・コンパクトでありながら、パワフルな上昇力を持っています」とする。

「その一方で、作業終了後は圧抜きコックを緩めるだけでラムが自動的に下降する機能も備えています」と続ける。

「AJ-250」は、超偏平タイヤ

# 整備機器

## 新商品

### 小野谷機工

レッグカーフ-500シリーズ  
エアージャッキ「BAJ」シリーズ

# 脱着作業の軽労化と効率化実現

ヤの整備作業現場での軽労化・省力化を図るために開発されたのがインパクトレンチハンガーフ(吊り機)やレッグカーフと呼ばれるサポータの重量負担と機器ポートツールだ。今回の新製品は、そのうちの「レッグカーフ-500」シリーズとなる。

アームを2段式の旋回機構にするという新

しい発想、そしてバランスシリンダーを採用したのが「F-500」シリーズの大きな特徴点。

アームの上下の位置決めが自由です。従ってレッグカーフ本体を車両の横にセットすれば、作業を中断し移動させることなくワンストップで、ホイールナットの取り

回アーム機構と前方向ブレーキ、収納スペースの小物入れ・大&レバー挿しが共通の付属装備。ハイエンドの

「レッグカーフ-500LB」には後方ブレーキや消音装置、インパクトレンチへの空

気供給圧力の調整を行なうF.Rユニット、小物入れ(中/小/ナット入れ)をフル装備している。

同社のジャッキは工作台方式。アーブースター方式。空圧のみ高油圧を発

生させるもの。

武澤さんは「ベースターエアジャッキ『BAJ-A』シリーズは、ボディが軽量・コンパクトでありながら、パワフルな上昇力を持っています」とする。

「その一方で、作業終了後は圧抜きコックを緩めるだけでラムが自動的に下降する機能も備えています」とする。

「AJ-250」は、超偏平タイヤ

用時)。本体重量47kg、キャスター径Φ200mmアタッチメント使

用。運転時に発生する排気音を低減し、作業環境の向上を図っています。

（横野 正義）



高床用1段式ジャッキ「BAJ-250-H」



超低床用多段式ジャッキ「BAJ-120T」